



# 施設園芸・植物工場展 NEWS

Greenhouse Horticulture & Plant Factory Exhibition / Conference

発行元  
GPEC NEWS 編集室  
〒100-0013  
東京都千代田区霞が関1-4-2  
大同生命霞が関ビル4階 アテックス(株)内  
TEL:03-3503-7703 FAX:03-3503-7620  
E-mail:ofc@gpec.jp

## 出展申込締め切り迫る!! GPEC2026が今夏、東京で開幕



GPECは、2年に1度、東京で開催される施設園芸・植物工場分野に特化した国内唯一の専門展示会である。農閑期にあたる7月開催という点特徴で、主来場者である生産者が全国各地から来場し、「設備更新や新規導入を具体的に検討する場」として定着している。出展企業からも「生産者の来場が多く、エンドユーザーの声を直接聞ける」「関東近郊の生産者が一堂に集まるため、効率的にPRができる」といった評価が寄せられており、継続的に出展し、定期的な製品PRの場として活用する企業も多い。

近年は、エネルギー価格の高騰や人手不足を背景に、生産性向上と持続可能性の両立が各業界で求められている。施設園芸・植物工場分野も例外ではなく、AIや管理システムの活用、リスク・労務管理への関心が高まっている。

### 国内唯一 施設園芸・植物工場の 専門展

(一社)日本施設園芸協会主催の『施設園芸・植物工場展(GPEC)』が、7月15日(水)から17日(金)の3日間、東京ビッグサイトで開催される。9回目の開催を迎える本展は「技術を極め、未来を耕す、革新の施設園芸」をテーマに掲げ、施設園芸および植物工場分野に最新の農業関連設備や技術を紹介する情報発信の場である。2月末の出展申込締め切り前に、出展申込や問い合わせが相次いでおり、今回のGPECにも大きな期待が寄せられている。本紙では展示会の最新動向について紹介する。

## 施設園芸・植物工場の最新技術が集結 2年に1度の商談機会



### 省力化と安全対策の 最前線

近年、施設園芸を取り巻く経営環境は大きく変化している。慢性的な人手不足や資材・エネルギー価格高騰に加え、猛暑や豪雨などの頻発により、生産安定性確保と作業安全対策が重要な課題となっている。



こうした背景から、栽培の自動化やデータ活用による効率化、災害対策や労務トラブルへの備えを両立するスマートアグリとリスク・労務管理への関心が一段と高まっている。GPECでは、それぞれの課題

### 農業施設を支える 多彩な展示が集結

GPECでは、こうしたニーズを踏まえ、新たな出展対象を設けて出展を呼びかけている。施設園芸・植物工場分野の展示会として高い知名度を誇るGPECに、今回はどのような展示が集まるのか、業界内の注目は一層高まっている。

施設園芸を取り巻く環境は、資材価格やエネルギー費の上昇、気象の激甚化、人手不足など複合的な課題に直面している。GPECでは、ハウス構造・設備、インフラ、栽培システムまで幅広い分野の企業が出展し、生産を支える基盤技術が一堂に会する。

### 3月末まで 申込受付を継続

2月末に出展申し込み締め切りを迎えるが、事務局には本紙で紹介している企業以外にも問合せが相次いでいる。(出展者一覧は裏面に掲載)

事務局では会場レイアウトに着手する3月末までは可能な限り申し込みを受け入れる方針だ。ただし、会場スペースにも限りがあるため、出展を検討している場合は、早急に事務局へ問い合わせしてほしいと呼びかけている。



開。イノチオアグリはハウスの新技術や改修提案を通じて、既存施設の性能向上を図る。

初出展者による展示内容にも注目したい。日東工業は施設園芸・植物工場の電気インフラに関するソリューションを提示し、設備の安定稼働を支える基盤技術を訴求する。兵神機械工業は自然光利用型水耕栽培など栽培設備分野からアプローチし、省力化と生産性向上を提案する。

近年は新設だけでなく、既存施設の設備更新によって生産性を高める取り組みも進む。収量と品質の両立を図るため、設備・資材・環境制御を組み合わせた最適化への関心が高まっている。本展は、生産現場の課題を多角的に解決する技術を比較検討できる場でもある。

### 環境変動に対応 被覆・遮光技術に注目

夏季の猛暑や日射量の変動、冬季の燃料費高騰などを背景に、施設園芸では「光と熱の制御」が収量と品質を左右する重要要素だ。被覆・遮光資材によって環境負荷も抑えながら安定生産を実現する考え方が広がり、生産者の関心はますます高まっている。

GPECでは、フィルム資材や遮光ネット、カーテン資材などの「被覆資材、遮光資材」を新たな出展対象として取り上げる。施設の基本性能を決定づける分野として、近年は省エネルギー対策や高温障害対策の観点からも見直しが進み、既存施設の改修ニーズも増加している。

出展常連企業をはじめとした多くの出展者がこの分野での出展を決定している。AGCグリーンテックはルーフィングシステムを通じ、作物に適した室内環境を総合的に提案する。オカモトは農業用PO(農業用ポリオレフィンフィルム)によるハウスの温度のコントロールで、夏季の遮熱対策を訴求する。住化積水フィルムも幅広く扱う農業用PO製品を展示し、多様な栽培条件への課題解決を提案する。フタムラ化学は、素材の特性を活かした複合シートにより、品質向上と省エネ効果の両立を図る。施設設計を考える上で、本展は重要な情報収集の場となりそうだ。

「スマートアグリ提案」では、IoT・AIの活用や自動化機器・ロボットなどに加え、排熱利用技術や地中熱ヒートポンプといったスマートエネルギーの提案を対象としている。サンホープは最新のドロップかん水システムを展示し、現場の課題に応じた最適なかん水・施肥技術を提案する。ハカルプラスは作物の葉を傷つけず栄養状態を測定できる非破壊型センサーを紹介し、科学的根拠に基づく栽培判断を可能にする。泉州電業は土壌を温めるヒーター線を展示し、作物の生育促進をサポートする。

「農業リスク・労務管理」では、災害対策や作業の安全や管理に関する展示を募る。イーズは省エネと大風量を両立した農業用ヒートポンプを提案、温度ムラの解消と作業環境の最適化を訴求する。生産効率向上とリスク低減を同時に実現する展示が新たに増えることで、本展は持続可能な施設園芸経営を支える実践的な提案の場となるだろう。

# アクアポニックス・陸上養殖設備展を同時開催 分野を越えた交流が、新たな商談を生み出す

## 水産業の革新支える 専門展示会

近年、安定供給と環境負荷低減を両立する生産手法として、陸上養殖やアクアポニックスへの関心が高まっている。「アクアポニックス・陸上養殖設備展」は、こうしたスマート水産業を支える設備やシステムが一堂に集う専門展示会であり、GPECと同時開催される。今回で3回目の開催を迎え、国内唯一の専門展示会としての認知を着実に高めている。

同展は、「アクアポニックス機器・システム」「陸上養殖関連設備・機器・システム」「環境制御装置・技術」「スマート養殖技術・サービス」「種苗関連・育成技術・資材」「輸送・加工機器」「水産関連技術・サービス」の7分野で構成され、陸上養殖を取り巻く技術やサービスを幅広く網羅している。



施設園芸・植物工場分野においても、新たなビジネスモデルや技術で市場を切り拓くスタートアップ企業への関心が高まっている。本展では、こうした新進気鋭の企業を後押しするため、スタートアップ向けの専用出展プランを用意している。今回も革新的なアイデアを持つ企業の展示に注目したい。京都大学発スタートアップの「サンリット・シードリングス」は農地の生物環境を分析する自社ツールなどを展示する予定である。また、農業用ロボットの開発を手掛ける「FieldWorks」は畝間に対応した薬剤散布ロボットを披露する計画だ。

## 業界に革新もたらす スタートアップに注目

## 垣根を超えた交流が生む 新たなビジネスチャンス

すでに、アクアポニックス事業の共創カンパニーであるアクポニヤブランドフォームをはじめ、機械式ろ過フィルターを展示するアクアインパルス、IoT水質センサー等を扱うアイエンター、養殖設備における酸素供給方法の新技術を提案する宇部工業などの出展が決定している。本展示会は、次世代水産業の社会実装に向けた技術交流とビジネスマッチングの場として注目を集めそうだ。

施設園芸とアクアポニックス・陸上養殖は共に環境制御型生産として、温度・湿度管理や自動化システムなど共通技術が多いといった共通点が見られる。同展の来場対象は水産・養殖関係者が中心となるが、両展示会の来場者が相互に交流することにより、水産業と農業の垣根を

越えた新たな商談機会の創出が期待されている。

同展も、出展申込はGPECと同様に3月末まで延長して受け付ける予定である。出展に関心のある企業や団体に対しては、早めに事務局へ連絡するよう呼びかけている。



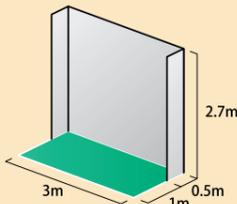
なお、本プランは先着順となっている。出展を検討している場合は早めに事務局へお問い合わせを。

## スタートアップ出展プラン(先着順)

出展ブース料金(税込)

236,500円/小間

※4.5m<sup>2</sup>/1小間(間口3.0m×奥行1.5m)



出展条件

- 会社設立10年未満の会社(申込時を起算)
- 法人登記簿のデータご提出が必須
- 1社につき、1小間のみ申込可能
- 先着20社限定(上限に達し次第受付終了)

## 施設園芸・植物工場展(GPEC)2026 / アクアポニックス・陸上養殖設備展2026 出展者一覧

2月19日現在 (共同出展者、一部検討中含む)

あ	国際農業社 コスモスエンタープライズ	タキロンシーアイ 鶴見製作所 ティビーアール デルフィージャパン 東海テクノ 東海物産 東京インキ 東芝ライテック 東都興業 トミタテクノロジー ※プリバ社 ※リッシェルグループ トヨタネ	福井シード フタバ産業 フタムラ化学 プラントフォーム フルタ電機 プレスカ 兵神機械工業 ベストクロップ ホーグス ホタルクス
イ	サイデック サカタのタネ 佐藤産業 ※ジャパンマグネット サンキンB&G 三相電機 サンホープ サンポリ サンリット・シードリングス JFEエンジニアリング ※Priva ジャパンドームハウス ジャパンプレミアムベジタブル スナオ電気 住化積水フィルム セイコーステラ 西部技研 誠和 セムコーポレーション 泉州電業	な	ま
エ	た	日建リース工業 日東工業 日本施設園芸協会 日本養液栽培研究会 日本ワイドクロス NEXYZ. ネポン 農研機構 野菜花き研究部門 ノーユー社 ※TAVLIT ※NUFiltration	まちだシルク農園 みのる産業 明治大学 植物工場基盤技術研究センター
オ	か	は	や
カ	ダイキン工業 大仙 ダイヤテックス 高田種苗 ※ライク・ズワーン社 タキゲン製造	ハカルプラス ヒラカワ FieldWorks 福井県	やまこうファーム ヤンマーグリーンシステム ユビキタス環境制御システム研究会
キ	クボタ グリーンテックアンドラボ 恵葉&菜 健康野菜 高圧ガス工業		ら
ケ			loadoff ※エムエーエスインターナショナル
コ			わ
ク			渡辺パイプ
ケ			海外
コ			HWASUNG INDUSTRIES Jiangsu Guangman New Materials PLASTIKA KRITIS

### 出展募集中

出展に関する  
お問い合わせ



GPEC事務局 / アクアポニックス・陸上養殖設備展事務局  
TEL:03-3503-7703 MAIL:ofc@gpec.jp  
WEB:www.gpec.jp www.gpec.jp/aqua/

